

安全データシート

製品名 : ハイウェイ・ハイドロプライマー
SDS.No : NK20251226HP
作成・改定 : 2025 年 12 月 26 日

1. 化学物質等および会社情報

製品名 : ハイウェイ・ハイドロプライマー
推奨および使用上の制限 : 土木、道路補修用材料

SDS 整理番号 : NK20251226HP
会社名 : 株式会社 近代化成
住所 : 愛知県愛知郡東郷町大字春木字小坂 141-2
電話番号 : 0561-38-5100
FAX 番号 : 0561-38-1270
連絡先 : 株式会社 近代化成 技術部
電話番号 : 0561-38-5100

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

	(液体部)	(粉体部)
物理化学的危険性		
引火性液体	区分外	区分外
金属腐食性物質	分類できない	分類できない
健康に関する有害性		
急性毒性 (経口)	分類できない	分類できない
急性毒性 (経皮)	分類できない	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない	区分 1
眼に対する重篤な損傷性 /刺激性	区分 2	区分 1
呼吸器感作性	分類できない	分類できない
皮膚感作性	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない	分類できない
発がん性	区分 2 B	分類できない
生殖毒生	分類できない	分類できない
特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	区分 3	区分 3
特定標的臓器/全身毒性 (反復回路)	区分 1	区分 1
吸引性呼吸器有害性	分類できない	分類できない
誤嚥有害性	分類できない	分類できない
環境に対する有害性		
水生環境急性有害性	分類できない	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない	分類できない
上記で記載がない危険有害性は分類対象外か分類できない		

ラベル要素

絵表示またはシンボル

(液体部)

(粉体部)



注意喚起語

危険

危険

危険有害性情報

	(液体部)	(紛体部)
注意書き	H-319 強い眼刺激	H-314 重篤な皮膚の薬傷および眼の損傷
安全対策	H-335 呼吸器への刺激の恐れ	H-318 重篤な眼の損傷
	H-341 遺伝性疾患の恐れのある疑い	H-335 呼吸器への刺激の恐れ
	H-351 発がんの恐れのある疑い	H-372 長期にわたる又は反復暴露による臓器の障害
	H-372 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害	

	P260 粉塵、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと
	P264 取り扱い後は、よく手を洗うこと。
	P270 製品使用時には、飲食、喫煙を避けること。
	P271 屋外または換気のよい場所で使用する。
	P280 保護手袋、保護眼鏡、マスク、保護衣を着用すること。
救急措置	P302+P352 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
	P304+P340 吸入した場合は被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
	P305+P351+P338 眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗い、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける。
	P308+P313 暴露又は暴露に懸念がある場合には：医師の診察／手当てを受けること
	P314 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
	P332+P313 皮膚刺激が生じた時は、医師の診断/手当てを受けること。
	P337+P313 眼の刺激が続く場合は医師の診断/手当てを受けること。
	P362+P364 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
保管	P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密栓しておく。
	P405 施錠して保管すること。
廃棄	P501 内容物/容器等の製品付着物は関係法令に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別成分および含有量 混合物
(液体部)

成分	公示番号	CAS No.	%
長鎖不飽和脂肪酸混合物	2-975 2-608 2-609	112-80-1 67701-06-8 463-40-1	50~90
ストレートアスファルト 60~80	9-1720	8052-42-4	10~50
ステアリルホスフェート	2-1986	39471-52-8	out 0~1.0

(紛体部)

成分	公示番号	CAS No.	%
炭酸カルシウム	1-122	471-34-1	80~90
高炉セメント	ポルトランドセメント 40~70	1-193 1-194 9-2408	10~20
	高炉スラグ 30~60	1-194 1-475	

配合割合 液体部：紛体部=60：40 (wt%)

4. 応急処置

- | | |
|----------|--|
| 吸入した場合 | ・速やかに新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 |
| | ・気分が悪いときは医師に連絡すること。 |
| 皮膚に付いた場合 | ・直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を水と石鹼でよく洗う。 |
| | ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診察／手当てを受けること。 |
| 眼に入った場合 | ・清浄な水で 15 分以上眼を洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 |
| | ・目の刺激が続く場合は医師の診断／手当てを受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | ・無理に吐かせないで、水でよく口の中を洗浄した後、直ちに医師に連絡すること。 |

応急措置をする者の保護 ・救急者は、保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- | | |
|--------------|--|
| 消火剤 | ・泡、二酸化炭素、粉末
粉体部自体は燃焼しない。 |
| 使用してはならない消火剤 | ・棒状水 |
| 特定の消火方法 | ・消火活動は原則、風上から行う。 |
| | ・火災場所周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。 |
| 消火を行う者の保護 | ・消火作業の際には、適切な保護具（保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面や耐火服を着用する。 |
-

6. 漏出時の措置

関係法規に準拠して作業する。

人体に対する注意事項

- | | |
|-----------|---|
| 保護具及び緊急措置 | ・作業者は保護具（8. 暴露防止措置及び保護措置の項を参照）を着用し、風上で作業する。 |
| | ・屋内の場合、処理が終るまで適切な換気を行う。 |
| | ・漏出した場所の周辺にはロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。 |

環境に対する注意事項

- | | |
|--|-----------------------------|
| | ・漏出物が河川、水路等公共水路に流れ込むのを防止する。 |
|--|-----------------------------|

除去方法

- | | |
|--|------------------------------|
| | ・粉塵が被散しないようにする。 |
| | ・漏出液や粉体を密閉可能な容器にできる限り回収する。 |
| | ・残留液は土、砂等に吸着させて密閉可能な容器に回収する。 |

廃棄

- | | |
|--|----------------------------------|
| | ・回収した漏出物は（13. 廃棄上の注意）にしたがって廃棄する。 |
|--|----------------------------------|

二次災害の防止策

- | | |
|--|-------------------------------------|
| | ・漏出物回収し、漏出した場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。 |
|--|-------------------------------------|
-

7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い

- | | |
|--|--------------------------------|
| | ・容器は注意して取り扱いする。 |
| | ・皮膚との接触を避ける。 |
| | ・眼との接触を避ける。 |
| | ・眼と接触した場合は直ちに多量の水で洗い医師の診断を受ける。 |
| | ・すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐ。 |
| | ・皮膚と接触した場合は、直ちに多量の水又は石鹼水で洗う。 |

技術的対策

安全取り扱い注意事項

- | | |
|--|------------------|
| | ・粉塵、ミストを吸入しないこと。 |
| | ・換気のよい区域で使用する。 |

- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・取り扱い後は手洗い、汚染箇所の洗浄を十分に行う。
- ・取り扱い中は飲食、喫煙してはならない。

保管

適切な保管条件

- ・直接日光の当たらない換気のよい場所で、密閉容器にて常温（40℃以下）保管する。
- ・湿気の少ない乾燥した場所に保管する。

安全な容器包装材料

- ・他の容器に移し替えないこと。

8. 防爆防止および保護措置

	(液体部)	(粉体部)
管理濃度	未設定	高炉セメント 1.63 mg/m ³ 炭酸カルシウム 2.9 mg/m ³
許容濃度 日本産業衛生学会 (2021 年度版)	アスファルト 勧告値なし	ポルトランドセメント 1 mg/m ³ (吸入性粉塵) 4 mg/m ³ (総粉塵) (第 2 種粉塵 ポルトランドセメント))
ACGIH (2021)	アスファルト 時間荷重平均 (TWA) 値 0.5 mg/m ³	高炉セメント TLV-STEL 未設定 TLV-TWA 10 mg/m ³ (ポルトランドセメントの含有成分 1-193 硫酸カルシウムとして)
設備対策	・排気／換気設備を設ける。 ・手洗い／洗顔設備を設ける。	
保護具	・必要に応じて保護マスクや防塵マスク等の呼吸用保護具を着用する。	
呼吸器用保護具	・保護手袋を着用する。	
手の保護具	・側面シールド付き安全メガネ、またはゴーグルを着用する。	
眼及び顔面の保護具	・保護衣、保護エプロン等を着用する。	
皮膚及び身体の保護具		

9. 物理的および化学的性質

	(液体部)	(粉体部)
外観	黒色液状	灰白色粉体
臭い	特有臭	なし
引火点	約 210℃	不燃性
密度 25℃ (g/cm ³)	0.90～1.00	2.6～2.8
水溶解性	不溶	水と反応する
融点 (℃)	0 以下	—
粘度 (mPa・s) 25℃	300～1000	—

1 0. 安定性および反応性

安定性・反応性	冷暗所で密封された容器中では安定。 液体部、紛体部が混合された場合には発熱反応を伴って、固化する。 紛体部は水と反応してアルカリ性を呈する。	
避けるべき条件	液体部 高温 直射日光 紛体部 水および湿気を避ける。	
混触危険物質	液体部 酸化剤、強アルカリと接触すると発熱、発火する恐れがある。 紛体部 水と反応してアルカリ性を呈する。	
危険有害な分解生成物	データなし	

1 1. 有害性情報

	(液体部)	(紛体部)
急性毒性（経口）	データなし	炭酸カルシウムとして ラット LD50 6450 mg/kg 高炉セメントとして ラット LD50>2000 mg/kg
皮膚腐食・刺激性	混合脂肪酸として わずかに刺激	データなし
眼刺激性	区分2	区分1
生殖細胞変異原性	アスファルトヒュームとして 区分2	分類できない
発がん性	アスファルトヒュームとして 区分2 B※	分類できない

※IARC は道路舗装等のストレートアスファルトによる長時間に及ぶ「アスファルトエミッション」による職業暴露について「グループ2 B」発がん性があるかもしれないに分類している。

他の毒性	現在までのところ有用な情報なし
------	-----------------

1 2. 環境影響情報

	(液体部)	(紛体部)
水性環境有害性（急性）	分類できない データなし	分類できない データなし
水性環境有害性（慢性）	分類できない データなし	分類できない データなし
生態蓄積性	データなし	データなし
残留性／分解性	データなし	データなし
水溶解度	混合脂肪酸：不溶 アスファルト：不溶	高炉セメント：反応する。 炭酸カルシウム：僅かに溶ける
土壌中の移動性	データなし	データなし
オゾン層への有害性	データなし	データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	・ 内容物／容器を地方又は国の基礎に従って廃棄すること。 ・ 燃焼する場合は、安全な場所で、かつ燃焼、爆発によって他に危害または損害を及ぼすおそれのない方法で行うとともに見張り人をつける。 ・ 大量処理は知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。 ・ 海、河川、湖、その付近および排水溝に廃棄してはならない
汚染容器および包装	・ 内容物を完全に除いた後、処分する。処理は関連法規に従って行う。

1 4. 輸送上の注意

	(液体部)	(粉体部)
国際法規則		
国連番号 (指針番号)	該当しない (なし)	該当しない (なし)
品目	該当しない	該当しない
国連分類	該当しない	該当しない
容器等級	該当しない	該当しない
海洋汚染物質	該当しない	該当しない
国内法規制		
陸上規制情報	消防法、道路法に従う	該当しない
海上規制情報		
船舶安全法、	該当しない	該当しない
航空規制情報	該当しない	該当しない
海洋汚染物質	該当しない	該当しない
緊急応急措置指針 No	—	—
その他 (一般的注意)	直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。	

1 5. 適用法令

	(液体部)	(粉体部)
消防法	第四類第四石油類 危険等級Ⅲ 火気厳禁	該当しない
労働安全衛生法		
特化則	該当しない	該当しない
有機則	該当しない	該当しない
表示・通知対象物質	アスファルト (10～50%) (名称表示・通知危険／有害物)	該当しない (なし) ※ ※ポルトランドセメント (4～14%) は 2023 年 8 月 30 日公布除外されている。
化学物質管理促進法	該当しない	該当しない

毒物・劇物取締法	該当しない	該当しない
火薬類取締法	該当しない	該当しない
船舶安全法	該当しない	該当しない
航空法	該当しない	該当しない
海洋汚染防止法	該当しない	該当しない

16. その他

- 参考資料
- (1) Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals UN
 - (2) 日本産業衛生学会 許容濃度の勧告 (2021)
 - (3) ACGIH American Conference of Governmental Industrial Hygienists(2021)
TLVs and BEIs
 - (4) NITE－CRIP 独立行政法人 製品評価研究基盤機構
 - (5) JIS Z 7252 および JIS Z 7253 GHS に基づく化学品分類方法

- 記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。記載事項は通常の利用を目的としたものであるため、特別な取り扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取り扱い願います。また、この情報は新しい知見および試験等により改正されることがあります。